



Q子どもの頃の町長さんの将来の夢はなんでしたか？

A 私の小さい頃の夢は、教員になることでした。ですが昔は長男が家業を継ぐものでしたので農業を継ぐつもりでしたが、やはり自分で納得しないまま農業をやるくらいならと考えて、勤め始めてしまいました。



Q畑や田んぼの仕事は高齢な人たちがやっています。若い人たちがやれば作業が早く進むと思いますが？

A そのとおりです。「農業はあまりもうからず大変だ」という現状を変えていかなければなりません。自然の中で働けてお金も稼げて自由な時間も持てる農業になれば、将来農業をやりたいと思う若い人たちがでてくると思います。妙案は今のところありませんが、まずは基盤の整備を計画したいと思っています。



Q多古町では農業が盛んですが、農業以外に盛んな産業はありますか？

A 意外に多古町は産業の数が多くありません。多古工業団地の中に製造業や加工業がありますが、皆さんが大人になった時に働くには少ないですね。今後、圏央道のインターチェンジや便利な道が作られれば、空港にも近いのでいろいろな会社が来ると思います。多古町にもっと会社ができるように努力していきたいと思っています。



Qなんでスーパーとか買い物したりするところが一か所に固まっているのですか？

A スーパーなどを経営する会社は、せっかく店を作ってもお客さんが来てくれないとお店がつぶれてしまうので、お店をここに作ったらお客さんはどのくらい見込めるか？年齢層はどうか？などの調査を十分に行います。その結果、ある程度便利で人が多いところにお店が集まる傾向にあるようです。



限られた時間の中での話し会。小学生にとっては普段直接話す機会のない町長との話し合いは少し緊張した様子でしたが「なんとなくわかりました」「次の機会があったら、もっと聞いてみたいことがありました」と笑顔で感想を聞かせてくれました。この話し会は、9月より残る3校でも順次行われます。

このように、子ども達がまちづくりに関わったり町政への関心を深めたりする取り組みは、「中学生の議会体験」としても行われました。こちらの詳しい様子は次回の「議会だより」でお伝えします。



多古町の未来を話し合う、小学校での特別授業
6月から町長が先生役となつて各小学校をひと月ごとに巡る特別授業。次代を担う小学生が町の取り組みや現状について、日頃から疑問に感じていることや提案など率直な意見を交えて町のトップである町長と話し合うことにより、まちづくりへの関心を高め、「ふるさと多古町」の郷土愛を育てるとともに、今後のまちづくりへ活かすことを目的としてはじめました。
人口減少や少子・高齢化など町が今かかえている問題点や、特産品の多古米や大和芋、歴史や文化など町の素晴らしい点について説明した後、5・6年生たちからの質問に答えるかたちで授業お話し会を進んでいきます。今回は、常磐小学校と久賀小学校でのやり取りの一部を紹介します。

町長が先生!?

Q町長さんの仕事は？

A 皆さんの家庭でいうならば、お父さんやお母さんにあたります。皆さんが学校へ通えるのは、お父さんやお母さんが働いて皆さんが満ち足りた学校生活を送るための環境を作ってくれているからです。それを支えるのが町の仕事であり、例えば学校や道路の整備など、どこにどうお金を使えばいいのかなどを考えることが町長の主な仕事です。

Q町長さんの仕事で楽しいところはなんですか？

A 皆さんとこういうふうに話ができることや、夢を描いてそれが現実になってくることです。教育というのも夢のある楽しいことだと思っています。皆さんが夢をもって晴れ晴れとした顔で勉強ができる環境を作って、歴史や文化を育ていけるよう努力しています。皆さんには、早い時期から目的を持って有意義な学校生活になるように頑張ってください。